

関西芸術座

大坂城の虎

作。かたおかしろう
演出。松本昇三

関西芸術座は1957年に創立しました。創立以来、私たちは青少年を対象とした学校公演を巡演しています。

生の舞台を観る経験の少ない子どもたちに、劇場や体育館という空間の中で、お芝居を通じ喜びや希望を共有し、次代を担う彼ら彼女らに何かひとつでも未来への実りある材料を渡したい。そう願いつつ私たちは公演活動を続けています。

「大坂城の虎」は大阪の民話を基にした作品で、1966年の初演以来何度も再演を重ねてきました。弱く、立場の違う犬たちが生きるために一つになり、大きな力を持つ虎に立ち向かう壮大な物語です。講談、浪曲、義太夫と大阪の古典芸能をバックに上演します。

この作品をご覧頂き、お芝居の楽しさと、未来に生きる希望と力強さを感じて頂くことを切に願っています。

<http://kangei.main.jp>



演出 / 松本 昇三

「大坂城の虎」は、理不尽な権力に対して弱い立場の人たちが、いたぶられ、追い詰められるも、意見の対立を乗り越えついに一致団結して、勝てずとも一矢(いっし)報いる話です。「皮を剥がれて殺されるくらいなら一か八かおもいっきりぶつかって死んでやる!」という犬たちの生きざまに共感をよぶ話です。

かたおか氏も言うておられるように、「犬が虎をやっつけるというような、既成概念を覆すくらいの新しい発想が芝居を作るにも必要だ」という事を肝に銘じながらの芝居創りをしたいと思っています。

今の若者たちに、『簡単にあきらめるな!ぶつかって行け!なにか道はある!』ということを感じてもらえたらと思っています。

虎に対する戦いを太鼓のリズムに乗せて躍動させます。また、昔から上方の文化であった講談、浪曲、義太夫などで繋いでゆくお話ですが、そういったところも大阪独自の昔話として面白いところです。伝統芸能に加え、日舞、ダンス、アクションと出演者は七転八倒しておりますが、関西芸術座のこれからを背負って立つ俳優陣の若さと力強さにご期待ください。

作 / かたおかしろう

1970年再演時のパンフレットから抜粋

この舞台の主人公はやっぱり犬でなければと、今でも私は確信している。

大阪の民話は、日本の民話の系列の中では、はるかにダイナミックである。いわば、権力に対する民衆の眼のむけ方が「眼には眼を!」的である。

この「大坂城の虎」などは、全くその点では傑出している。秀吉のシンボルである大虎を、社会の底辺の犬が(原話では天満の金物屋の犬)が打ち倒す。まさに、決定的な価値転換である。

ネズミに対して猫、蛙に対して蛇と同様に、犬に対して虎という対比が昔から言いふるされているが、それを逆転させた大阪の民衆の想像力は、ちょっと他に類を見ない。

しかし、しかしである。どうして、われわれの祖先は、これを犬の話として創り、伝えたかの問題に私は注目したいのである。

原話是这样語る。

— 徳八さんは「りき」の毛なみを

なでてやりながら、いいました。

「かわいそうやがわしを、うらまないで、

いっとくれ」と、さいごのごちそうを

たくさんやりました。

なんにも知らない「りき」は、ごちそうを、
たくさん食べて、徳八さんと
大坂城へいきました。 —

私はこの部分を、何度も何度も読みかえしたものだ。そして、徳八の無力さの中に、何とも言いようのない腹立たしさと、いらだちを感じ、なんにも知らない「りき」に、その裏返し of いらだちを読み取ったのである。「わしをうらむな」と何度徳八が語ろうとも、私は徳八をうらみたい。その「うらみ」を、この話を創った人々は、やはり自分の胸につきさしつつ語り伝えただろうと想うのだ。

人間の話として創れなかった祖先の痛み、それを私はいいかげんに人間の話に置き換えたくはなかったのである。これは「犬」の話で書きたかったのだ。(中略)

上方伝統芸能には「死にざま」が一つのドラマの追求点になっているようだ。

今非常に大切なことは、死にざまをカッコよくすることではなく、生き様を執拗に追求することである。私たちは“生き残る”知恵と力を持たねばならない。実に、実に歯がゆいことだが、これからの、私の生き様で示すほかはない。

キャスト



リキ
大村 昇汰



おギン
夢前 ゆり



チチ
南谷 峰洋



ハチ
伊能 努



チン
中野 里咲



クマ
林 睦人



徳八
藤吉 雅人



小西行長
／小西の侍大将
多田 慎吾



小西の兵卒
保田 麻衣



加藤清正
／加藤の侍大将
山口勝成



加藤の兵卒
淵上 真如



講釈師／浪曲師
／義太夫
高橋 政満

声の出演

多々納 斉
松本 幸司
森本 竜一
前田 英利
山本 峻也
上沢 拓也
芳本 亘世
山岡 由梨子
菊地 彩香



太鼓演奏 ※オプションです

女性和太鼓ユニットびんか

山口 舞子・矢野 蓮・矢野 綾

2012年5月に結成し、大阪を中心に幅広く活動を展開。
『和太鼓の迫力はそのまに若さ溢れる表現力』が持ち味。
3人のコンビネーションは見る人を笑顔にする。『私たちの演奏
で、1人でも多くの人が笑顔や元気を感じていただけるきっかけ
となれば』という“想い”を一つに、全国で活動を拡大中!

スタッフ

音楽／河野 良
太鼓／女性和太鼓ユニットびんか
日舞振付／花柳與早路
洋舞振付／Kayeon
浪曲指導／春野 恵子
義太夫指導／鶴澤 寛輔
アクション振付／丸山 銀也

体操指導／マツ奥井
方言指導／松寺 千恵美
三味線演奏／一風亭 初月
美術／野崎みどり
照明／池内得裕
音響／廣瀬義昭
音響オペレーター／勝藤 珠子

衣裳・小道具／勇来 佳加
演出助手／濱田 楓香
舞台監督／辻村 孝厚
イラスト／鈴木 なるみ
宣伝美術／境谷 純 恒川 愛子
制作／鴻池 央子
向田 至
淵上 真如

ものがたり

時は文禄元年、朝鮮へと兵を進めた太閤秀吉。が、これが散々の負け戦。

「負け戦と思わせてはならぬ」と考えついたのが、戦場で生け捕った大虎を押し立てて凱旋することだった。

さあ、大事な虎を飢えさせては大変と、出されたおふれはなんと『大坂中の犬を虎の餌にする』というもの！

追い詰められた犬たちは、遂に虎退治に立ち上がる。

はたして、虎よりも弱い犬たちは、団結して強い虎に勝てるのか…

むかしむかし 大阪の
天満の町のそのあたり
語り伝わる話し草
名犬リキの物語り
名犬リキの物語り





<アンケートより>

最後のパフォーマンスの盛り上がりがとても良かったです。中高生には是非見てもらいたい。(70代・女性)

感動しました。すごく楽しかったです。犬たちを想う人の葛藤、見ていてシビれました!(10代・高校生)

物語を浪曲や義太夫で語る形式も素敵でした。衣装の家紋が肉球なのも可愛らしくて良いです。(40代・男性)

何事にも立ち向かう勇気や強さを見習いたいと思いました。(20代・会社員)

感動しました。生きる! 事を選択、大阪の歴史と文化・江戸時代前の土農工商、身分制度へと向かう人間の愚かさ…深い所に感銘しました。(60代・主婦)

様々な伝統文化、歴史背景、盛り沢山な中にもしっかり強いメッセージが込められており、大変感激致しました。(40代・教師)

エンターテインメント性、ストーリー、熱演、申し分なし。良かった。(70代・男性)

迫力のある演技に圧倒されて、あっという間の2時間でした。(20代・学生)

歴史ものは苦手で、特に戦国以降は…と思っていたのですが、とても面白かったです。子どもから大人まで楽しく観れる内容ですね。観に来てよかったです。(50代・主婦)

最近では戦わない人が多い中で、お芝居の中のリキたちのように、立ち向かう事の大切さを改めて考えさせられました。(20代・男性)



関西芸術座HPもしくは下記URLへアクセスして頂くと「大坂城の虎」ダイジェスト映像(2分)がご覧いただけます。

<https://youtu.be/RrACGKkogtA>

作品の背景

物語の舞台、天満

大川を挟んで上町台地の北に位置する天満は、淀川が氾濫しても水没を免れる平地として古い歴史をもっています。秀吉は天満を船運の拠点にしようと考えていました。また、のちに船場へ移り、さらに雑喉場・靱といった下船場(大阪府大阪市西区北東部)へ移った生魚商・塩干魚商らも、もとは天満に居住していました。現在は大阪天満宮や、日本一長い商店街と称される天神橋筋商店街も有名です。



安土桃山時代(1573~1600年頃)、 文禄元年(1592年)当時の 秀吉と農民

1583年、秀吉は大坂本願寺跡に初代の大阪城を築城しました。本丸の築造に約1年半を費やし、その後も秀吉が存命した15年の全期間をかけて、徐々に難攻不落の巨城に仕上げられました。城下町大坂は、政治・経済・軍事・文化の中心都市となっていたのです。

そのうち大坂城と城下町は、1614年・大坂冬の陣、1615年・夏の陣で、焦土と化すこととなります。

太閤秀吉の全国統一は朝鮮侵略の準備と並行してすすめられました。秀吉が行ったさまざまな国内政策のなかに「太閤検地」「刀狩令」「身分統制令」があります。これらの政策が複合した結果、武士と農民を完全にわける「兵農分離」が完成します。「太閤検地」により農民は土地の所有権を認められましたが、そのかわりに年貢を納める義務を負うことになりました。たとえ不満が募っても、「刀狩令」により武器を取り上げられたため、一揆や反乱は起こせません。また、武士が百姓や商人になったり、百姓や商人が武士になったりすることは「身分統制令」で禁止され、農民は農民として働かざるを得なくなったのです。

秀吉は農民から徹底的に戦力や戦意を奪い、国力の全てを外国との戦争に注ぎ込みました。当時の農民たちのフラストレーションは、徳八のような社会的立場の弱いものに向けられたと考えられます。「大坂城の虎」では朝鮮侵略の際、負け戦と悟られてはならぬと虎を連れて大坂中を凱旋しますが、力を誇示しようとしたのも、農民たちの蜂起を恐れたための行動だったのかもしれませんが。

渡辺村とは

「渡辺村」という呼称は近世以降に使われるようになった呼び名です。その由来とされる土地は、戦国時代、大川(天満を流れる川)の北岸に坐摩神社(いかすりじんじゃ/通称ざまじんじゃ)や天満宮の神官でもあった「渡辺氏」を中心とした武士集団が形成した土地であるとされています。

登場する歴史上の人物

小西行長

元々は武士ではなく堺の商人の子として京都で生まれました。商売のため宇喜多直家(戦国時代の武将。備前国の大名)の元をたびたび訪れており、その際に才能を見出されて武士となりました。その後、秀吉にスカウトされ家臣となるのです。キリスト教に入信し、洗礼を受けています。



加藤清正

豊臣秀吉の子飼いの家臣で、秀吉に従って各地を転戦して武功を挙げ、肥後北半国の大名となりました。秀吉没後は徳川家康に近づき、関ヶ原の戦いでは東軍に荷担して活躍し、肥後国一国と豊後国の一部を与えられて熊本藩主になりました。築城の名手として知られ、熊本城や、蔚山倭城、江戸城、名古屋城など数々の城の築城に携わりました。



伝統芸能 「大坂城の虎」には多くの伝統芸能が登場します。

講談

「落語」が会話によって成り立つ芸であるのに対し、「講談」は話を読む芸という言い方ができます。読むといっても単なる朗読とは違い、独特の喋り調子と小道具の使い方で展開されます。よく使われる小道具として有名なのが「張り扇」と「釈台」(机)です。張り扇で釈台を叩きパパンという音を響かせて調子良く語ります。この小道具を巧みに使った芸こそ講談ならではのものです。



日本舞踊

「日本舞踊」という言葉は明治の初めに「踊り」と「舞」を含めて呼ぶものとしてできたとされています。

「踊り」が歌舞伎舞踊として特に江戸で好まれ、大きな劇場で踊ることが前提であるのに対し、「舞」は能とゆかりが深く、京阪のお座敷で発展したと考えられています。座敷で舞うことが前提だったため、埃を立てないように動きが制約されているのが特徴で、心情をにじみ出すように表現する事に長けています。



浪曲 (ろうきょく)

明治初期から始まった演芸の一つで、「浪花節」(なにわぶし)とも言い、三味線を伴奏に物語を語ります。浪花節の起源は800年前とも言われ、古くから伝わる浄瑠璃や説経節、祭文語りなどが基礎になって、大道芸として始まりました。一つの物語を「節(ふし)」と「啖呵(たんか)」で演じます。「節」は歌の部分で、物語や登場人物の心情を歌詞にしており、「啖呵」は登場人物を演じてセリフを話すものです。浪曲師によっては三味線のほかにもギターなどが入るケースもあります。



文楽・浄瑠璃・義太夫節

文楽=人形浄瑠璃のことで、(正式には人形浄瑠璃芝居と言います)浄瑠璃(義太夫語り)、三味線弾き、人形遣いの三者で成り立っています。

義太夫節(義太夫)は17世紀後半(江戸初期)に大阪の竹本義太夫によって創始された、主に人形芝居の音楽として使われる三味線音楽です。浄瑠璃(義太夫語り)と三味線の演奏で構成され、太棹三味線を使った重厚で迫力ある演奏と共に、情景や雰囲気、様々な人物の喜怒哀楽を表現します。



上演条件

| 構成人数 | | |
|------|------|----|
| キャスト | スタッフ | 総数 |
| 12 | 7 | 19 |

| 時間 | | |
|-----|-----------------------|-----------|
| 仕込み | 上演(途中休憩) | 撤収 |
| 3時間 | 105分(なし) 120分(10分) | 約 1時間半 |

| 舞台最低条件 | | | | |
|------------------------|------|------|-----|----|
| 間口 | 奥行 | プロセ高 | 楽屋 | 暗幕 |
| 10.9m | 5.5m | 3.6m | 2部屋 | 不要 |
| ※楽屋は近くに水場のある場所をお願いします。 | | | | |

| 人員移動方法 | | | 搬入車両 | |
|--------|----|-----|--------------|--|
| 列飛 | 車両 | 計 | 4tトラック 1台 | |
| 17人 | 2人 | 19人 | | |

★太鼓オプション付の場合は、左記に加え演奏者3名、搬入車両(普通車)2台 増となります。

●公演料に関して

制作担当者をご相談させていただきますので劇団までお問い合わせ下さい。
※遠方の場合、交通費・宿泊費が別途必要です。
※会場条件によって増員が必要な場合や、張出舞台が必要な場合は実費を加算いたします。

- 会館で上演する際の、申し込み手続きと会場費・付帯設備費のご負担は主催者側をお願いしております。
※申し込み時の『使用時間』とは、仕込み、撤収(片付け)を含みます。
※舞台設営上の打ち合わせは劇団が行います。
- お問い合わせの際、公演時期等がお決まりの場合、仮押さえも可能です。(キャンセル料は一切発生しません)
- 下見をご希望の場合もお問い合わせください。



関西芸術座HPもしくは
下記URLへアクセスして頂くと
「大坂城の虎」ダイジェスト映像
(2分)がご覧いただけます。

<https://youtu.be/RrACGKkogtA>

上演までの流れ

① お問い合わせ

ご希望の日程、ご予算、会場条件など、あらゆるご要望をお聞かせください。お見積りもいたします。

② 仮押さえ

ご希望の条件で上演可能な場合、仮押さえをさせていただきます。正式決定するまで、日程を確保(仮押さえ)します。

③ ご検討

内容を充分にご検討いただき、職員会議などで正式に決定しましたら、劇団にご連絡ください。劇団でも正式に日程を押さえます。

④ ご契約

公演決定後は、書面にて契約を行います。公演が近づきましたら、タイムスケジュールなどの打ち合わせをさせていただきます。

こちらも全国好評巡演中!!

中学校、高等学校、子ども・おやこ劇場、演劇鑑賞会など全国各地を巡演しております。

遥かなる 甲子園

「遥かなる甲子園」原作/戸部良也(双葉社刊) 脚色/西岡誠一 演出/鈴木完一郎 補演出/門田裕

「俺たちにも野球はできる!」聴こえぬ球音にかけた青春。



《あらすじ》1964年、東京オリンピックの年。沖縄で風疹が猛威をふるった。その時の妊婦から産まれた子どもの多くが、聴力障害を持っていた。その子どもたちの為に一過性の「ろう学校高等部」がつけられる。

ろう学校生の一樹は、かつて沖縄代表の応援に駆けつけたとき、そこで『音』を見た。「ルールに基づいて繰り広げられる戦いに、ろうあ者も健常者もない。」一樹の想いに賛同して野球好きの仲間が集まり、校長の許可を得て彼らは野球部を作る。

打球音も聞こえず、会話も困難で危険性のある中、彼らは手話をコミュニケーションとして、ただひたすら、高野連加盟のため、そして甲子園出場の夢のために、日々猛特訓を続けていた。

しかし「高校野球憲章第三章」は一樹たちの思いとは裏腹に、ろうあ者を初めから除外する規定になっていた。堅く閉ざされた甲子園への道。彼らの夢は――

お問い合わせ

関西芸術座

<http://kangei.main.jp>

〒550-0012 大阪市西区立売堀 3-8-4

TEL (06)6539-1055

FAX (06)6539-1056

e-mail kangei@os.urban.ne.jp